「笑顔とつながり」

永田台

ユネスコスクール11周年

No.549　9月号
横浜市立永田台小学校
TEL(714)4277
令和3年9月1日

進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに

「WE HAVE WINGS」(私たちには翼がある)

校 長　　武山 朋子

東京パラリンピックの開会式は、「WE HAVE WINGS」(私たちには翼がある)がテーマでした。会場の国立競技場を「パラ・エアポート」という空港に見立てて、車いすの少女が演じる「片翼の小さな飛行機」が空を飛べるようになるまでを色彩豊かに描いたこのパフォーマンスを、ご覧になった方も多いのではないでしょうか。わたしもじっと見入ってしまった一人です。

大会組織委員会はこのパフォーマンスの意図を、「人間は誰もが、自分の『翼』を持っていて、勇気を出してその『翼』を広げることで、思わぬ場所に到達できる。その『翼』をテーマにした物語」であると説明しています。ここから始まるパラリンピックの熱戦を前に、「逆風の中で翼を広げようとしているパラリンピアンの勇気を強調した」と発信した海外のメディアもあったようです。

この夏、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、一人一人のアスリートのひたむきな姿にたくさんの感動をもらいました。メダルの色や数よりも、様々な逆境に負けずにこの舞台に立てたことについて、周囲への感謝を述べる選手がたくさんいたことが印象的でした。また、開催への賛否両論様々な意見がある中で、大会を安全に開催するために最前線で奮闘する方々には、頭の下がる思いでした。その一方で、新型コロナウィルス感染者数が駆け上がるように増加する毎日に、不安な気持ちが膨らむのも事実でした。きっと多くの方々が、こうした思いの渦巻く日々を過ごされた夏だったことでしょう。

もしかしたら、先の見えない日々を不安な気持ちで過ごすわたしたち一人一人が皆、実は「片翼の小さな飛行機」なのかもしれません。そしてこのパフォーマンスの中で、「様々な個性をもった仲間の存在」や「自分らしさをだいじにして輝く姿」や「こうした仲間からの励ましや支え」によって勇気と自信を得て、「私にも私の翼がある」と信じ、大空に向かって滑走路を走りだすことができたように、わたしたちにも、空へと飛び立つ支えが必要なのかもしれません。

夏休みを終えて学校生活が始まります。子どもにとって学校での「学び」とは、単に教科の学習を進めることだけではありません。様々な考え方、様々な価値観、様々な個性、こうした多様性のある様々な仲間との出会いの中で、自分自身を拡げていくことも大切な「学び」です。一人一人が自分の翼を信じ、飛び立っていくことができるよう、わたしたちは支えたいと思っています。そのために、安心・安全な学びの場となるよう、まずは感染症対策に努め、子どもの心に寄り添うところからスタートしたいと考えています。どうか今後もご理解とご協力をいただけますよう、宜しくお願い申し上げます。